

沖縄慰霊の日をむかえて

沖縄は第二次世界大戦において日本で唯一地上戦が展開された。軍民合わせて20万人以上の人々が犠牲となった。沖縄戦での犠牲者をはじめ全戦没者の冥福（めいふく）と世界の恒久平和を願い、糸満市摩文仁の平和祈念公園では毎年6月23日沖縄全戦没者追悼式が行われる。犠牲者20万人のうち非戦闘員が9万4000人といわれている。半数が戦闘に巻き込まれ亡くなっていった。しかし戦闘員として国によって軍隊に招集された市民、労働者もまた巻き込まれたといってもよい。

戦後67年まだまだ土中に眠る遺骨

その激戦地が今では南の島のリゾートとして、多くの人たちが訪れる。しかし、戦後67年経った今でも戦闘で犠牲になった多くの方々が島では眠っている。あまり報道されないが、最近でも八重瀬町では親子と見られる子供の遺骨2体と大人の遺骨1体、西原町では、少年兵や少年の遺骨7体が収容されている。開発の進む沖縄で工事を優先するあまり遺骨の収拾が進まない事も問題となっている。未だ安らかに眠れないのである

また、最近では基地移転の問題に加え、MV22通称オスプレイ配置が新たな問題となっている。オスプレイは3ヶ月で2度も墜落事故を起こし、米国内でもその性能が問題視されている。住宅密集地に隣接する沖縄の基地は「世界一危険な基地」ともいわれている。「危険な基地」に「危険な飛行機」なのである。住民の不安は計り知れない。

今なお犠牲をしいられる沖縄

沖縄戦は本土決戦を覚悟した日本軍が、米軍の侵攻を遅らせるための作戦だった。沖縄は、捨て石にされたのであった。そして戦後は米国の統治下におかれ日本独立の人質にされ、復帰後は基地の島として日米安保の人質にされている。

慰霊の日に非礼な首相

6月23日沖縄にとって特別な日に、この国の首相が「危険な飛行機」配備の要請をするようである。なんと無神経ではないか、この日が何のためにあるのか分かっているのか。今なお犠牲者は癒されはしない。

命まで差し出した結果、この国は沖縄の人たちに何も報いていない。なのにまた沖縄の人たちに危険を背負わせ、命をさしだせというのか。

私たちはあらゆる戦争政策に反対します